



『男の対決』

「その金から手を離しな」

男は煙草を啜え、目の前にいる真珠のピアスの男を睨みつけた。

4畳半ほどの小さな部屋だ。そこで2人の男が対峙している。

15年前の扇風機がキイキイと音を立てて首を回している。

「いや、しかし竜次」

ピアス男は右手で額の汗をぬぐいながら、それでも未練がましく抵抗を試みるが、その言葉に勢いはない。

「しかしもカカシもねえ！」

竜次と呼ばれた男は、大きく目を見開き声を荒げた。

「いいか、俺は真剣なんだ。ルール違反は容赦しねえ」

「そういうわけじゃ」

「じゃ、どういうわけなんだ！」

竜次が右の眉を上げる。

「その金は諦めろと言っているんだ。それができねえなら」

竜次はもう一度煙草を吸い、ピアスに向かって煙を吐きつける。

「ゲームオーバーだ」

ピアスが大きいため息をつき、がっくりと肩を落とした。

「この金を取られちゃ、もう勝負にならねえ」

「そんなこたあねえだろう、もうちっとがんばんなよ」

「でもさっき飛車も取られたしい。負けだ負けだ！ 今日の昼飯代は俺が払う！ ラーメンでい

いか？」

そう言って、ピアスが将棋盤の前で頭を掻いた。

『洗うおしごと』

どうしても空しさを感じてしまいます。

一所懸命やっているのに報われない、深い虚無感。

お仕事だから、お客様に頼まれればどんなサービスでもするけれど。

ああ、わたしももう、こんなに濡れてしまった。

さあ、じゃあもう一度。

右手を使って擦るように。

下から上へ、上から下へ。

ときどき泡をつけて、動きはリズムカルに。

ソフトに愛情をこめて、でも時に力強く。

硬い部分も、デリケートなところも。横も、前も。

ああ、でもやっぱり空しい、そしてはずかしい。

こんな姿、誰かに見られたらどうしよう。

だけどいったい、何の意味があるのでしょうか。

雨の日にガソリンスタンドに来て洗車だけ頼むなんて。

『ドクからの手紙』

ゆりさん、こんにちわ。

じしよをたよりに、なんとか便を出してみます。

ほ一むすていをしていたときは、とてもげせわになりました。

二本のごはんはさいしよ、く手だったけど、だんだんおいしくおもうようになりました。

ゆりさんは、おりようりがとてもうわ手ですね。とてもうまやらしいです。

きのうの夜、ひさしげりに国にかえってきて、きよう土りようりの「いもりのすも一くかえるのたまごぞえ」をたべました。

なつかしさでむねにすっぱいものもみあげてきました。

また二本にいったら、ぜひゆりさん手づくりの〈三才のたたきこみごはん〉をごちそうしてください。

二本ごはやっぱりむづかしいですが、がんばって便を出してみました。でもつかれるので、ながい便は出せませんでした。

またあえる日を薬しみにしています。

ではさようなち。

『日本数理学会に向けて』

学会を明日に控え、先日、教育関係のパーティで知り合った来恩寺教授から1通のメールが届いた。

5年もかかってしまったが、ポアンカレ予想の別解というのだろうか、もっともエレガントと思われる数学的な証明を立てることに成功した。

ペレルマンの鼻をあかしたつもりだが、実際どうなのだろうか（苦笑）。

うちの大学のドクターたちを始め、複数の検証チームに確認を依頼したが、いまのところ証明にピンホールは見つかっていない。

チャンスなので、明日の学会で報告しようと準備している。君にはぜひ聞いてほしい。

ほう！事実とすれば、これはすごい！

もうひとつ。ガロアロア理論についてだ。

現在ではドブル空間において、ライースした値にキャベトゥ因数を引いた場合とデミグラ・ソーシュ係数を掛けた場合とでは、なぜか必ず一定のポーク差があることがよく知られているだろう。

しかし、その間にトーンカツの法則を適用すると、みごとなソース・カツドム現象が見られるのだ。

詳細は学会で発表するので、これも楽しみにしてほしい。

頭痛がいたくなった。

『一生の出会い――一期一会――』

君に初めて出会ったのは今からちょうど5年前、梅雨の残り雨が肌につく初夏。

都内で開かれた小さな美術展だった。

きれいな風景画がいくつも壁に掛けられた白い大きな部屋を抜け、薄暗くてほんのりジャスミンのお香が匂う部屋の奥。

白いレースのクロスを掛けたテーブルに、君はいた。

今でもはっきりとその光景を覚えている。

月並みだけど、出会った瞬間、僕の身体にかみなりが落ちたような衝撃が走った。

僕はそこから一步も動けず、君のその清楚でそして凛とした姿に目を奪われた。

あの日あの時から、僕はまるで魔法にかかったかのように、君だけを想い見つめるようになった。

雨の日も晴れの日も、仕事中でも、シャワーを浴びていても、考えるのは君のことばかりだ。

そして今も君は、リビングの中央で静かにたたずんでいる。

あの時とまったく変わらない姿で。

これからも、いつまでもいっしょにいておくれ。

やっぱり古伊万里の花瓶は最高に美しいな！

『オトナの悩み—診察室にて—』

先生、ご相談があります。

ここ最近、いわゆるその、あの、アレのとき、わたしのアレが、こ、コレくらいまでしか上がらなくなってしまいました。

下に垂れた状態から、なんとか頑張ってみるのですが、正面で地面と平行になるくらいまでで止まってしまい、ソコからなかなか持ち上がりません。

もう歳なんだからある程度は仕方ないと諦めてはいますが、やっぱり悔しくて。

若い頃はすごく硬くてハリのある曲線を自慢に思っていたのに、今では全体的にふにゃふにゃで柔らかくなってしまったのも自分でショックです。

なんとかならないものかと妻に入念に揉んでもらったり、ドリンク剤を試したりしてみましたが効果がありません。

その妻にも最近「ダメねえ」ってな顔で、哀れみをこめて見られるのがたまりません。

まったくほんと、情けなくて涙が出ます。

これってやっぱりあれなんですか。よく世の中で言われている・・・

えっとあの、四十肩？

『人間万事塞翁が馬／禍福は糾える縄の如し』

私立らいおおん高校の生徒会長、来恩くんがある日、右足首に包帯を巻き、松葉杖で登校してきた。

いったいどうしたと聞くと、先週の第8回ポケモンカードゲーム世界大会に出場した際に足をくじいたと言う。意味がよくわからない。

ましかし不便だなと同情すると、いや別に、と飄々としている。

授業が終わって月末恒例の大掃除となったが、彼は怪我のため当番を免除された。

よかったなと肩をたたくと、そうでもないよと面白くなさそうだ。

掃除の間、彼は隅っこの椅子に腰掛けていたが、一人が松葉杖につまずき、転んだ拍子に来恩くんの足の包帯にバケツの水を掛けてしまった。

おい大丈夫か災難だなと声をかけるが、たいしたことないさと涼しい顔だ。

保健室に連れて行くと、今日の生徒の保健当番はミスらいおおんの新垣さんだった。

今、来恩くんは、にやにやしなから新垣さんにやさしく包帯を交換してもらっている。